資料紹介 太田家文書と太田窯跡および瓦製作用具等について

熱田　貴保・中安　恵一

はじめに

本稿では、近代、邇摩郡五十猛村（現・大田市五十猛町）において製瓦業や廻漕業などの経営を行った商家である太田家に残された文書と窯跡、および瓦製作用具等についての資料を紹介したい。

同家の文書と瓦製作用具は、令和４（2022）年、島根県立古代出雲歴史博物館へ「石見小豆屋（太田家）文書」「太田窯関連製品及び生産道具」として寄贈され、その後、島根県古代文化センターテーマ研究「近世・近代の交通と地域社会経済」事業内において整理を実施してきた。また、これを契機として現地窯跡の調査もあわせて行った。

以上の経緯を踏まえ、本稿では上記事業の成果の一部の公表という位置づけで、①整理した文書の目録の掲載、②製作用具等の目録および実測図の掲載、③関連する古写真などの紹介を行う。

文書群の多くを占める瓦経営に関する史料群は、管見の限り近代石見地方の事例としては最も古い。さらに、文書群・窯跡・製作用具類いずれもが残る事例としては県内唯一である。明治中期以降の石見地方の瓦生産の実態を明らかにする上で貴重であり、今後の活用が期される資料群といえる。

１．太田家の主な家業について

太田家は、屋号を小豆屋（しょうずや）といい、近世後期頃より石見銀山附幕領磯竹村に居を構えたと伝わる。

太田家の家業について、「世代伝記」（目録番号１－１）により簡単に触れておきたい。太田家は嘉永４年（1851）より海運業に参入し、断続的ながら明治11年（1887）まで続けている。海運業廃業ののち、明治18年３月に当主藤兵衛が瓦製造業を起こし、工場を建築した。その後は、同21年に藤兵衛の子、助太郎が経営を引き継ぎ、昭和７年（1932）頃まで操業した。明治30年代頃には、廻漕店や生命保険合資会社、油蝋製造といった事業も資料から確認できるなど、多角的な経営をおこなっていたとみられる。

また、助太郎は、五十猛村村農会長（明治31）、山陰移住株式会社取締役（明治35）、邇摩郡農会議員（明治44）、邇摩郡窯業組合副組合長（大正６）、山陰製蝋株式会社取締役（大正７）など、諸産業組織の要職を歴任しており、これらに関する簿冊も残っている。

２．太田家文書について

太田家文書は、目録点数152点で構成される。自筆の文書としては文久３年「諸用永代帳」（目録番号３－15）が最も古いが、近世期のものはこれを含む数点にとどまり、大部分は明治・大正期のものである。その内訳は、瓦製造業をはじめとする上記家業の経営史料、そして同家が関わった産業組織に関する事務書類が多数を占めている。なお、古代文化センターのこれまでの研究事業との関連で言えば、石見焼の組合組織の一つである邇摩郡窯業組合関係史料がこの中に含まれており（目録番号４－25）、今後研究の進展が見込める。

太田家文書目録

親番号	子番号	史料名	日付	差出人（作成者）→受取人	形態	状態	数
1	1	世代伝記			竪帳		1
1	2	（古写真）	昭和30年５月18日		一括	包紙一括	1
1	3	造船費用簿	（明治21～24年）	太田商店航海部	綴		1
1	4	松江銀行書類	（昭和２～14年）		綴		1
1	5	牧畜台帳	明治弐拾弐年四月開廛	太田店農部	綴		1
1	6	慈善事業書類	（明治44年～昭和18年）		綴		1
1	7	土地改良区に関する書類（一括）	（昭和34年度）		綴	封筒一括	1
1	8	（山林材調書類一括）			一括	こより一括	1
1	9	（太田知庸より太田宣孝宛書状一括）			一括		1
1	10	（地番ごとの土地図面覚）			綴		1
1	11	願届書綴 第一号	（明治39～大正15）		綴		1
1	12	公文書綴	（明治40～昭和19）		綴		1
1	13	官文書綴	（明治40～昭和26）		綴		1
1	14	伺令書綴	（明治11～大正７）		綴		1
1	15	民法範囲捺印原簿	（明治15～昭和29）		綴		1
1	16	公共諸会書類	（昭和２～20）		綴		1
1	17	滞納米徴収台帳（朱書「第三號」）	大正二年	太田	綴		1
1	18	政治関係書綴	大正弐年以来		綴		1
2	1	（北海道行書類17点一括）			一括		1
2	2	北海道移住株式会社仮定款（開墾費用収支予算概目共）			綴	封筒共	1
2	3	北海道みやげ蝦夷百風景附アイヌ風俗	（初版）明治三十六年一月三日発行	編輯兼発行者・小島千代松	冊	「明治三十四年七月北海道石狩国□郡倶知安村山陰移住株式会社農場行記念」	1
2	4	露国海軍法令全書第十八貫海軍治罪法ノ部一千八百八十六年出版			冊	包紙「日露戦争記念品」	1
2	5	博覧会品評会賞状（第五回内国勧業博覧会「瓦」・松江市鉄道連絡記念物産会「瓦」など12点一括）	（明治23年～大正10年）		一括	包紙一括	1
2	6	出雲風土記假字書（上中下3冊）	安政三年八月	小林敬義	和本		1
2	7	島根県名勝誌　再版	明治四十一年七月三日発行	奥原福市著、松江有田有斐堂蔵版	書籍		1
2	8	日本書紀通釋（全6冊）	昭和五年一月十五日発行	飯田武郷著	書籍		1
3	1	瓦売捌帳	紀元弐千五百五十二年明治二十五年壬辰三月	太田店	横帳		1
3	2	瓦地売帳（朱書「第弐号」）	自大正三年三月	太田瓦商店	横帳		1
3	3	瓦販売帖	大正十三年	太田瓦工場	横帳		1
3	4	瓦地売代金掛取帳	大正拾参年八月	太田瓦工場	横帳		1
3	5	瓦地売代金掛取帳	大正拾四年弐月	太田製瓦工場	横帳		1
3	6	瓦地売代金掛取帳	大正拾四年八月大正拾五年二月	太田製瓦工場	横帳		1
3	7	瓦地売代金掛取帳	昭和四年二月ヨリ昭和五年二月マデ同七年二月マデ	太田製瓦工場	横帳		1
3	8	駄賃支払帳	明治弐拾有九年九月起		横帳		1
3	9	駄賃帳	明治三十六年癸卯三月	太田瓦製造場	横帳		1
3	10	職工労役帳	明治三十八年三月吉日	太田瓦工場	横帳		1
3	11	職工帳	明治三十九年	太田瓦製造場	横帳		1
3	12	総駄賃帳	明治三十九年丙午三月日	太田瓦製造場	横帳		1
3	13	職工雇人出勤帳	大正弐年	太田瓦場	横帳		1

3	14	永代帳（幕末から明治にかけての船新造祝・法事関係ほか覚）	□□元年十月	小豆屋又兵衛	横帳		1
3	15	諸用永代帳	文久三年癸亥正月吉祥日	宮本屋舩一郎	横帳		1
3	16	物品売立台帳	明治弐拾三年寅一月吉祥日	東塵源市	横帳		1
3	17	永代録	明治廿四年三月始		横帳		1
3	18	金銭物品貸借計算帳	大正十一年		横帳		1
3	19	諸貸借明細帳	大正十一年		横帳		1
3	20	毎日出納帳	昭和弐年一月	太田経理部	横帳		1
3	21	毎日金の出入しらべ	自昭和三年一月至同十二月	太田理財課	横帳		1
3	22	毎日金の出入しらべ	自昭和四年一月至十二月	太田会計部	横帳		1
3	23	出納日記	昭和五年一月	太田経理課	横帳		1
3	24	出納日記	昭和六年	太田出納係	横帳		1
3	25	出納日記	昭和七年	太田出納係	横帳		1
3	26	出納日記	昭和八年	太田	横帳		1
3	27	出納日記	昭和九年	太田出納係	横帳		1
3	28	出納日記	昭和十年	太田	横帳		1
3	29	出納日記	昭和拾壱年	太田	横帳		1
3	30	出納日記	昭和十二年	太田	横帳		1
3	31	出納日記	昭和拾参年	太田	横帳		1
3	32	出納帳	昭和十四年	太田	横帳		1
3	33	出納帳	昭和十五年	太田	横帳		1
3	34	出納帳	昭和十六年	太田	横帳		1
3	35	出納帳	昭和十七年	太田	横帳		1
3	36	出納帳	昭和十八年	太田	横帳		1
3	37	出納帳	昭和十九年	太田	横帳		1
3	38	出納帳	昭和二十年	太田	横帳		1
3	39	出納帳	昭和弐拾壱年	太田	横帳		1
3	40	出納帳	昭和弐拾弐年弐拾参年	石見大浦太田	横帳		1
3	41	出納帳	昭和弐拾四年昭和弐拾五年	太田	横帳		1
3	42	収入帖	昭和弐拾五年	太田	横帳		1
3	43	出納帳	昭和二十六年昭和二十七年	太田	横帳		1
3	44	出納帳	昭和二十八年	太田	横帳		1
3	45	出納帳	昭和二十九年		横帳		1
3	46	（御通 9 点一括）	（明治～大正）		一括		1
3	47	買受米記帳	従昭和弐年九月	石橋新二郎→太田助太郎様	横半帳		1
3	48	御通	大正八年参月壱日	石見国迩摩郡酒醤油醸造元〈ﾔﾏの〉清水末作→太田様	横半帳		1
3	49	御通	大正拾壱年参月壱日	石見国迩摩郡酒醤油醸造元〈ﾔﾏの〉清水末作→太田様	横半帳		1
3	50	領収証綴	明治三十三年	太田会計主務者	綴		1
3	51	領収書綴	（大正 7 ～ 8 年）	五十猛村振農会	綴		1
3	52	（貯蓄金関係書類一括）			一括	紐一括	1
3	53	製油関係書類	明治三十五年	製油部	綴		1
3	54	濠州肥料販売簿	（明治32年）	太田肥料部	綴		1
3	55	書簡出発簿	明治三十一年六月	太田商店肥料部	綴		1
3	56	（汽船関係書類一括）			一括	紐一括	1
3	57	領収書綴（朱書「第壱號」）	（明治40年～大正 4 年）		綴		1
3	58	雑書綴	（明治23年～39年）		綴		1
3	59	諸種事業調査書	（明治23年～39年）		綴		1
3	60	村税交付金計算簿		第三十七番納税組合	綴		1
3	61	創業以来 瓦損益統計表	（明治24年～大正 5 年）	太田営業部	綴		1
3	62	航海商業損益決算簿	明治三十三年度	太田営業部	綴		1
3	63	振農報	（大正 6 年）	五十猛村振農會	綴		1

3	64	大浦生命保険合資会社　社長（金銭出入覚）		会計主任・太田助太郎	横帳		1
3	65	（共同補償合資会社宛領収書ひな形一括）			一括		1
3	66	邑智郡川本村　申込所控記	（明治）廿八年十二月四日		横半帳		1
3	67	（保険金差引計算覚一括）			一括		1
3	68	（金額覚、切手代・電信料ほか）			状		1
3	69	松江安来地方運動為ニ要シタル風ノ費用控	明治廿八年十月二十一日	社長・太田竹三郎→会計係御中	綴		1
3	70	五十猛村加盟者和□整人名			横帳		1
3	71	宍道紀行記臆	（明治29年７月）		横半帳		1
3	72	保険契約申込金保管簿	明治二十八年九月二十二日開業	大浦生命保険合資会社	綴		1
3	73	金銭受拂簿	明治廿八年九月廿日起	大浦生命保険合資会社会計係	綴		1
3	74	計算書	明治廿八年十二月二十五日	社員・太田竹三郎	綴		1
3	75	拂之部（諸入用覚書）	（明治28年９月）		綴		1
3	76	（瓦・焼物関係書類・書状一括）			一括		1
3	77	（肥料販売関係書類・書状一括）			一括		1
3	78	（大浦生命保険合資会社関係書類・書簡ほか一括）			一括		1
3	79	（瓦受取証書一括）	（明治20年代）		一括	巻き込み一括	1
3	80	（貨物送状・到着通知書一括）	（昭和10年代）		一括		1
3	81	（瓦製造・焼物販売関係帳簿一括）			一括	こより一括	1
3	82	大日本窯業協會々員名簿	明治三十一年十二月十五日発行	発行者兼編輯者・東京都神田区美土代町一丁目九番地福島県平民・武藤三枝	冊		1
3	83	大日本窯業協會雑誌（353号～370号）	（大正11年１月～大正12年７月）		冊		19
3	84	窯業新聞（61～66号）	（大正12年１月～６月）	発行所・名古屋市中区南呉服町二ノ三・窯業新聞社	冊		6
4	1	瓦積入書	（明治期）		綴		1
4	2	諸規定綴	明治三十七年十月	太田商店	綴		1
4	3	歳入出予算表并精算表	（明治33年～大正14年）		綴		1
4	4	遡明治廿参年売物代金及小口金銭臨時貸附債務者　登録見出簿	明治四拾一年	太田会計部	綴		1
4	5	執務用件録	大正四年春	庶務部	綴		1
4	6	主管要録	明治三十五年	総理部専用	綴		1
4	7	（建造物の図面）			綴		1
4	8	證書元稿綴（土地売買）	（明治37年～大正２年）		綴		1
4	9	共同債権證書捺印原簿	（明治21年～昭和10年）		綴		1
4	10	保険書類	明治四拾四年五月起		綴		1
4	11	株券臺帳	（昭和４～11年）		綴		1
4	12	公債株券名簿	（明治28～41年）		綴		1
4	13	山陰合同銀行書類	（昭和16～28年）		綴		1
4	14	田畑丈量図			一紙		1
4	15	山籔原野開墾未成地賃収入簿	（明治30年代）		綴		1
4	16	仁万村宅地地銭徴収帳	大正八年四月清写	太田店	綴		1
4	17	宅地賃貸料徴収帳（仁万村）	自大正貳年度	太田土地部	綴		1
4	18	貸家々敷賃収入簿	明治三十年二月	太田廛	綴		1
4	19	貸家賃徴収臺帳　出雲部	大正六年		綴		1
4	20	學事關係書類　第二号	（昭和２～15年）		綴		1
4	21	迩摩郡教育會書類	（明治41年～昭和14年）		綴		1

4	22	土木工事帳　庚區	（明治24年）		綴		1
4	23	公共諸會書類	（昭和12～20年）		綴		1
4	24	農林書會書類	（明治45年～昭和19年）		綴		1
4	25	商工諸會書類（迩摩郡窯業組合関係）	（明治45年～昭和2年）		綴		1
4	26	赤十字社書類	（明治21年～昭和18年）		綴		1
4	27	官公署諸會社廣告書綴	（昭和11～24年）		綴		1
4	28	官衙銀行會社廣告書綴	（大正８年～昭和17年）		綴		1
5	1	統計書綴	（明治31～39年度）		綴		1
5	2	【欠番】					
5	3	講金簿	（明治27～）		綴		1
5	4	（土地賃貸関係書類一括）			一括		1
5	5	選挙書類	昭和二十一年四月起		綴		1
5	6	貸金名簿	（明治４～）		綴		1
5	7	木材会社関係書類	（昭和16年）		綴		1
5	8	【欠番】					
5	9	森林組合関係綴	（昭和32年～49年）		綴		1
5	10	（大田市文化協会関係封筒一括）			一括		1
5	11	（大田市森林組合関係書類一括）	（昭和40年代前後）		一括		1
5	12	（船幟、美宝丸）				破損甚、開披やや困難	1
5	13	（船幟、大勢丸）				破損甚、開披やや困難	1
5	14	【欠番】					
5	15	大日本諸国道中細見図	明治十三年四月廿四日出版	編輯兼出版人・辻本九兵衛	一紙		1
5	16	分邦詳密日本地図	明治二十一年十一月六日発行	著作兼発行者・青木恒三郎	冊		1
5	17	出雲問答　全	明治十二年九月五日出版御届	佐々木幸見・吉川賢太郎編集	冊		1

３．窯跡について

太田家が経営していた瓦窯は大田市五十猛町野梅の標高約80ｍの山林に所在し、大浦湊からは約0.9㎞の距離にある。

窯は北東斜面に造られた14房の連房式登り窯で、全長約27ｍ、幅は4.6～4.8ｍ、勾配は約25°である（いずれも推定値）。房の入口は右側に設けられている（写真１）。窯右側の丘陵斜面には作業スペースとして加工した平坦面が設けられている。窯後背側の丘陵頂部は広い平坦地があり、建物が存在した痕跡が認められる。現状では樹木に覆われているが、登り窯、建物跡、建物前面の平坦地など窯場総体としての遺存状態は良好である。

写真１　太田窯跡　登り窯

太田窯を撮影した古写真が残されており、操業当時の窯場の状況を詳しく知ることができる。古写真１（裏面に鉛筆書き「五十猛村字野梅／太田瓦工場」）は登り窯を下から見上げたもので、最下段の焚口（大口）に平屋根、各房に切妻屋根が架かっている。大口の右に小規模な建物があり、その手前には大量の割り木が積み上げられている。また、窯の右側斜面には積まれた瓦とその上方に建物が見え隠れしている。古写真２は丘陵頂部の平坦地と窯の後背部を撮影したものである。窯の最後部に小規模な焼成室が付設され、窯の左側には古写真１にある建物の一部が写り、平坦地には居宅らしき建物がある。平坦地の手前側には粘土らしき土が置かれている様子がうかがえる。古写真３（裏面に筆書き「瓦場写真／明治時代」）は平坦地を東から見たもので、写真左側に登り窯と居宅建物がある。やや間隔を空けて右側に東西棟の長大な建物があり、瓦製造の作業場と考えられる。

古写真１

古写真２

古写真３

古写真：太田家蔵

4．瓦製作用具等について

寄贈された資料は合計33点で、内訳は表のとおり瓦等製作用具28点（1～28)、瓦3点（29～31)、人形型2点(32、33）である。瓦製作用具は桟瓦のほか各種の瓦を成形・調整する際に使用する木型を中心とした資料で、瓦の形状を作り出すための専用の道具である。瓦は太田窯で製造され、太田家の家屋にかつて使用されていたものである。

1は棟止めの太鼓瓦の巴文の型、2，3は丸瓦の巴文の瓦笵である。4～9は軒桟瓦の瓦笵で、このうち7は隅（角）瓦用の瓦笵、9は左桟用の瓦笵である。軒文様は2種類あり、左右に大小二つの子葉が反転するタイプと左右に四つの子葉が上向きに伸びるタイプがある。いずれも中心飾りは太田家の屋号「小豆屋」を記号化したとみられる「㊫」である。10～13はほぼ同型・同大のタタキ板である。14～27は瓦の成形・調整等に使う木型で、瓦の種類に応じて形態が異なる。15～17はタタラから切り出した粘土板（荒地）を乗せて成形する凸型台で、19、

表　太田窯瓦等製作用具および製品一覧

掲載番号	資料名	計測値			備考	寄贈番号	
		長さ	幅	高さ			
1	棟巴瓦打込形	16.0		5.4	側面に目印の刻線2か所	4	
2	巴瓦打込形	14.0		4.5	同上	3	1
3	巴瓦打込形	16.0		2.7	同上		2
4	タバネ打込形	36.9		3.3	右桟用	1	1
5	タバネ打込形	37.2		3.1	右桟用		2
6	タバネ打込形	37.1		3.2	右桟用		3
7	タバネ打込形	28.1		3.3	角瓦用		4
8	タバネ打込形	33.3		2.7	右桟用・子葉が左右に4本		5
9	タバネ打込形	35.7		3.0	左桟用		6
10	タタキ	46.2	6.5	1.0		2	1
11	タタキ	46.5	6.2	1.0			2
12	タタキ	44.8	5.9	0.7			3
13	タタキ	46.0	6.0	0.7			4
14	角瓦ヒレ形	30.6	7.0	1.0		18	
15	受形	34.9	36.9	9.2		11	
16	タバネ（唐草）大袖瓦受形	35.0	38.6	9.9		15	
17	小袖瓦切り形受形	31.0	28.6	8.6		13	
18	ノシ瓦切り形	5.2	19.4	18.7		14	
19	平瓦切り形	31.2	33.5	22.0		10	
20	小袖瓦切り形	31.5	27.6	21.5	袖軒桟瓦用切り型	7	
21	井戸瓦形	31.5	29.5	21.0		8	
22	置平形	29.2	26.0	20.7		9	
23	釜瓦切り形	31.6	32.5	26.2		6	
24	冠瓦切り形	27.9	23.6	13.1		12	
25	竹冠瓦切り形	30.4	19.8	10.4		19	
26	太鼓形	25.5	35.0	4.0		16	
27	大棟瓦形	25.0	36.0	2.7		17	
28	土管型か		16.6	51.5		20	
29	軒桟瓦	28.0	32.3	4.0	袖付	21	
30	棟巴瓦	30.5	14.0			23	
31	太鼓瓦	24.8	34.5	40.2		22	
32	土人形型		9.5	10.7		5	1
33	土人形型		8.8	9.7			2

＊1～27は現資料に直接書かれている名称

20は適度に乾燥が進んだ荒地を桟瓦に整形・調整するための凹型台である。凹型台上では荒地をタタキ板で叩き締め、瓦鎌で余分な部分を型の輪郭に沿って切除する。瓦鎌があたる切込み部分には補強のための部材が付加されている。また凸型台とはことなり、台を回転させて使うため軸を通す穴と軸受けのくぼみが設けられている。軒文様の瓦笵（４～９）は凸型台（16）と組み合わせて軒桟瓦を製作する。14は隅（角）瓦の袖の型である。18は棟積みに葺く熨斗瓦の型、23～25は同じく棟積みの冠瓦の型である。19～22は桟を持たない各種の瓦型である。26、27は棟止め瓦の板の部分の型である。28は筒状の製品の木型で、古写真２の居宅建物の雨樋につながる縦樋に土管状のものが連結している様子が確認できることから土管の型の可能性がある。

太田窯で製作された瓦は来待釉赤瓦と暗青黒色のいわゆる「鉄砂瓦」の二種類があり、寄贈資料は後者である。29は軒桟瓦で瓦当文様は中心飾り「㊙」から左右に大小の子葉が反転するタイプである。30は棟止め瓦と組み合わせて使う丸瓦である。31は棟止め瓦の「太鼓」で、26の型とは異なる形状の棟止め板がつく。32・33は土人形の合わせ型で、瓦以外の陶製品もこの窯で作られていたことがわかる。

窯跡の調査および古写真の掲載にあたっては太田博之氏のご協力をいただきました。また図面掲載にあたっては、大田市教育委員会のご厚意により実測図の提供を受けたほか、３Ｄモデルの作成・図化では岩崎考平さん、井谷朋子さんにご協力をいただきました。記して感謝します。

写真２　瓦・人形型

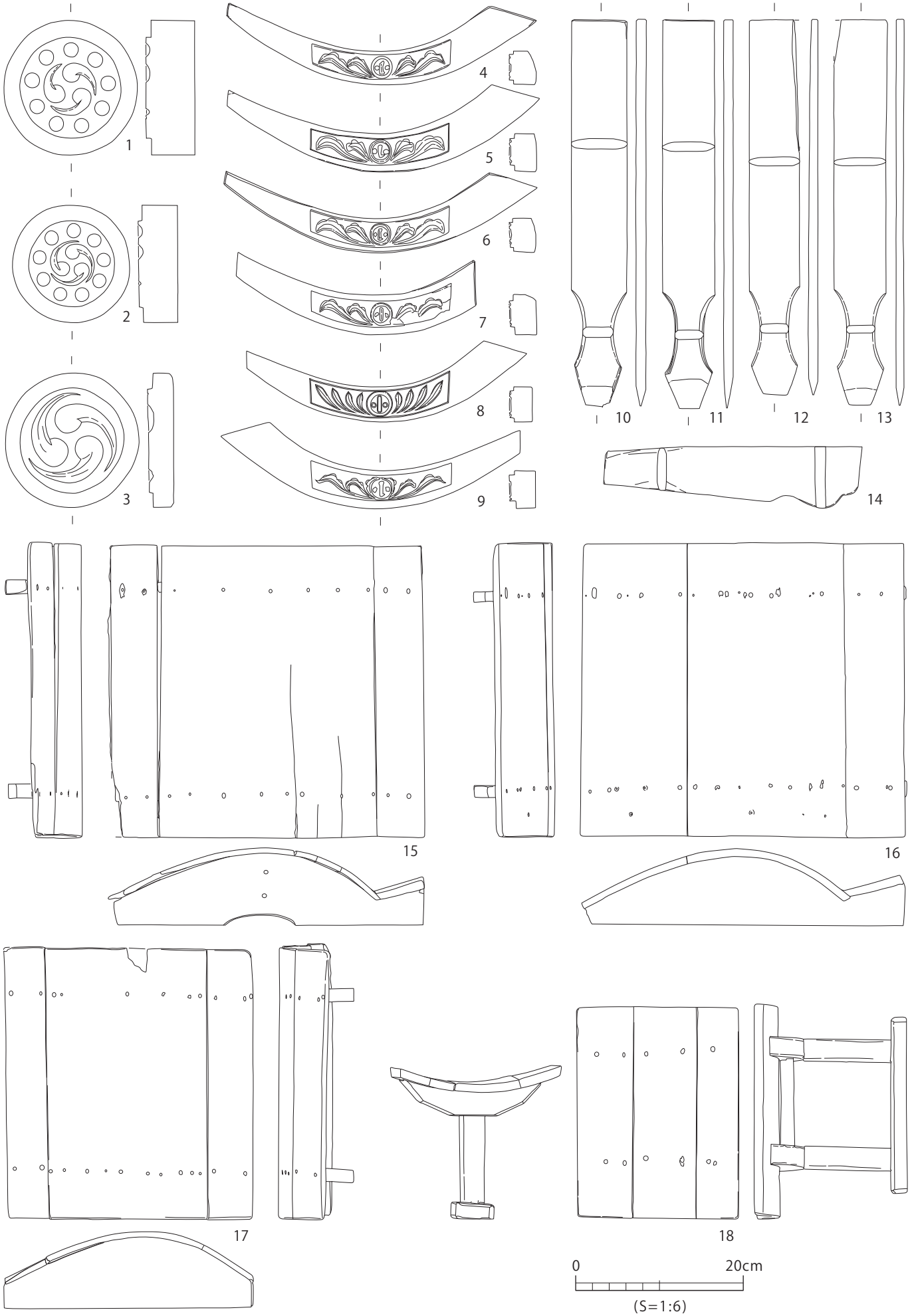

図1　瓦製作用具

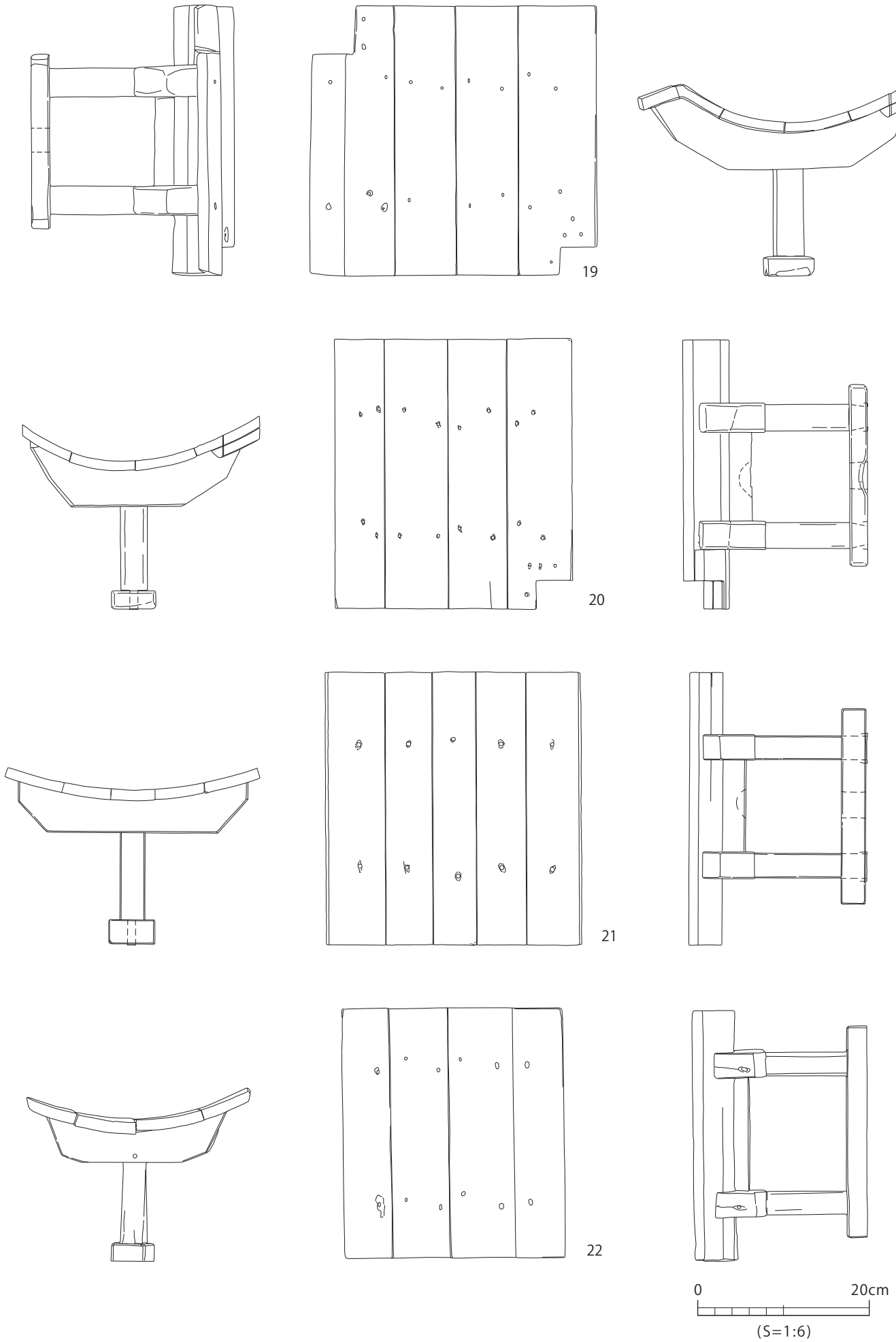

図 2　瓦製作用具

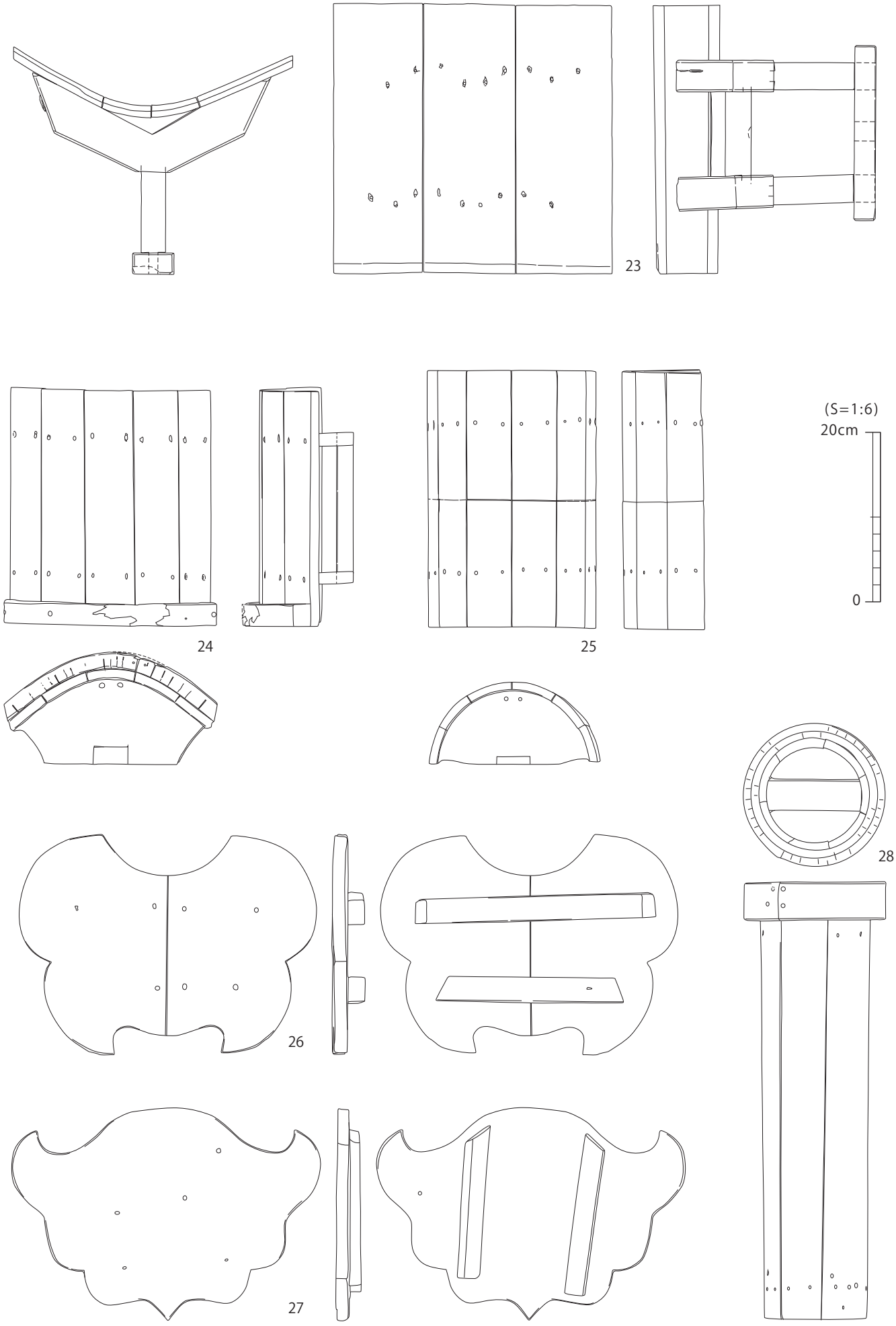

図 3　瓦等製作用具

図３　瓦等製作用具